

2022年度 学校経営計画及び学校評価【城星学園小学校】

1 めざす学校像

城星学園は、カトリックの精神に基づき、創立者聖ヨハネ・ボスコ（ドン・ボスコ）の教育理念である『道理』と『信仰』と『愛』に根ざした教育法によって、園児、児童、生徒の全人間教育に励み、神を敬い、人を愛し、自然を大切にする『良心的な人間、よき社会人』を育成することを使命としています。

「教育は心の問題であり、青少年を愛するだけでは足りません。
青少年が愛されていると感じられるように彼らと共に生きる」

2 中期方針・中期行動計画

- ドン・ボスコとマリア・マザレロの教育理念を堅持しながら、日々の教育活動の質をさらに高める。
 - ミッションスクールとしての意義をより強く認識する。
 - ミッションスクールとしての特性を具現化する。
 - 保護者の理解度を向上させる。
- 園児・児童・生徒・教職員が”Niente ti turbi.”(「何も恐れることはない」)を実感できるような教育環境を創造する。
 - 各学年にふさわしい安全教育・健康教育を実施する。
 - 危機管理研修を実施する。
 - 健全な人間関係の育成に重点を置く。
- 学園教職員の多岐にわたる研鑽の成果を園児・児童・生徒らの自主的で積極的な学びのために活かす。
 - アシステンツァを励行する。
 - ドン・ボスコの予防教育法に基づく信頼関係の構築
 - 発達段階や個別能力に応じた教科研究を実施する。
- 学園教職員全体が、学園の未来をともに築き支えていくという意識に基づき行動する。
 - 校種間の連携を強化する。
 - サレジオ一貫教育を強化し、大阪星光学院との連携を深める。
 - 府内カトリック私立中学校及び私立女子中学校との連携を図る。
- 保護者・同窓生・姉妹校の教職員・教会関係の人びと・地域社会の人びととの「アシステンツァ」を深める。
 - 保護者と寄り添いながら共通理解を図る。
 - 小学校同窓会（FDDDB）との連携を図る。
 - 地域社会の人々との関わりを深める。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

ア. 自己評価アンケート結果と分析	イ. 学校関係者評価委員会からの意見
<p><評価が相対的に高かった10項目></p> <ul style="list-style-type: none">○子どもの人間性や道徳心の育成○学校生活の楽しさ○教職員の建学の精神や教育目標の理解度○建学の精神・教育の理念に沿った教育の実践○全体的な本校への満足○教職員研修による教育理念・目標の深化○基本的な生活習慣定着のための指導○教育理念の分かりやすい説明	<p>学校法人城星学園学校関係者評価委員会は理事会・後援会(保護者)・各学校種管理職・評議員(学識経験者)により構成されている。2022年度学校評価に関する検討は2023年3月9日(木)に行われた。</p> <p><意見まとめ></p> <p>○様々な行事がようやく制限を緩和する形で進められた一年だった。そのような中で、教職員の尽力に心から感謝したい。日常生活においても教員が「アシステンツァ」を実践しているのを親としても嬉しく感じた。</p>

ア. 自己評価アンケート結果と分析(続き)	イ. 学校関係者評価委員会からの意見(続き)
<p>○教職員によるアシステンツァの励行 ○教職員の挨拶と敬意ある言動 (満足度88%以上)</p> <p><評価が相対的に低かった5項目></p> <p>○連携校との連携強化 ○進路指導の強化 ○同窓会・同窓生との連携 ○いじめの防止及び早期発見 ○幼稚園及び中高との交流 (満足度60~77%)</p>	<p>○学年に応じて自主性・主体性を育てるために「自分たちで考える」ことを意識して活動していた。今後も継続されることを期待したい。</p> <p>○共働き家庭が増えてきた現状の中、平日の行事参加や参観などは困難という意見がある。特に、運動会については、土日や祝日に開催してほしいという意見があるが、運動会の参観人数を考えると、学園内運動場での開催は不可能。他の会場を借りて実施する場合、土日・祝日開催は困難であろうが、実施日時や会場について、今後も検討してほしい。</p> <p>○授業の質を上げることに、一層、注力頂きたい。</p> <p>○学年が進むにつれて、保護者ニーズも変化する為、対応が難しい校種だと思うが、全体的に見れば、概ね保護者の理解を得ていると思う。</p>
<p><アンケート総括>満足度上位に建学の精神や教育理念に関する設問が並んでいることに加え、活動の総合評価にあたる「子どもたちは、学校生活を楽しんでいる。」も高評価となっており、本校が保護者から一定の評価を得ていることがうかがえる。一方で、満足度が低い項目には同窓生・他校種・連携校との連携に関する設問が散見される点に留意を要する。</p>	<p>○クラブ活動・その他の活動の下位評価はコロナ等でクラブ活動ができなかったことが影響したのではないかと。例えばいろいろなコンテストに参加したりしてはどうか。</p> <p>○ドン・ボスコの言葉にあるように、教員は「子どもと共に楽しむ」ことが肝要である。教職員が効率的に働くのも大切ではあるが、休み時間などに、子どもたちと共に、一層楽しんで活動してほしい。</p> <p>○放課後に補習などがなされており有り難い。学習のフォローアップが充実している点は評価できる。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

※ 満足度は学校評価アンケートで「5:とても満足」「4:まあ満足」の回答割合を示している。

※ 「年度評価」の記載内容は学校評価アンケートの結果を分析したうえで、当該目標にかかる活動全般を評価したものである。満足度85%以上で○、同60%以上で△、それ未満で×の表記としている。

中期的目標	中期行動計画	年度行動目標	ねらい	関連する学校評価アンケート項目及び満足度	年度評価
<p>1. ドン・ボスコとマリア・マザレロの教育理念を堅持しながら、日々の教育活動の質をさらに高める。</p>	<p>(A)ミッションスクールとしての意義をより強く認識する。</p>	<p>達成可能な個々の目標設定のもと、理想の児童像である「光の子」を育成するため、宗教研修を活性化し、カトリック教育に対する理解や教員同士の信頼関係の深化を図る。</p>	<p>無条件の愛情によるミッションスクールとしての存在意義の認識</p>	<p>学校は、建学の精神および教育理念に沿った教育を行っている。 (満足度91.6%)</p>	<p>(○) 日々の児童の活動の中で「光の子」に関する実践、特に身近な目当て達成するための取り組みがなされていた。</p>

中期的目標	中期行動計画	年度行動目標	ねらい	関連する学校評価アンケート項目及び満足度	年度評価
1. ドン・ボスコとマリア・マザレロの教育理念を堅持しながら、日々の教育活動の質をさらに高める。	(B)ミッションスクールとしての特性を具現化する。	ドン・ボスコ、マリア・マザレロを初めとする聖人の生き方に倣う。強いられてするのではなく、すべてのことに愛をもって行うように努める。宗教行事、宗教科、宗教科道徳の時間との関連を図る。	ファッチョイオの精神に支えられた、良心に基づいた意識の変化と行動の変容	学校は、保護者に対して、建学の精神および教育理念やミッションスクールとしての意義を分かりやすく説明している。 (満足度89.8%)	(○)後期まとめとして低学年が城星学園小学校70年の歩みを発表した。創立者の精神に則ってよくまとめられた来年度につながる発表であった。
	(C)保護者の理解度を向上させる。	保護者勉強会、ドン・ボスコ勉強会を実施し、ドン・ボスコ、マリア・マザレロが生きた時代の社会情勢や風土をもとに、その教育についての理解を深める。	カトリック精神及び創立者ドン・ボスコ・共創立者マリア・マザレロに対する保護者の意識高揚と教育共同体としての行動の変化	学校教職員は、建学の精神および教育理念、教育目標を十分理解し、共感できている。 (満足度92.1%)	(○)概ね良好であった。ただし一部保護者に児童に対する教育観に違いや隔たりが感じられたため、さらなる改善に向けた取り組みを考えていく。
2. 園児・児童・生徒・教職員が”Niente ti turbi.”(「何も恐れることはない」)を実感できるような教育環境を創造する。	(A)各学年にふさわしい安全教育・健康教育を実施する。	学年別各種教室を実施する。コロナ感染症等予防教育を中心に安全で安心な登下校指導に重点を置き、巡回指導を強化する。避難訓練を実施する。	児童及び教員の安心、安全な生活に対する意識高揚、具体的な行動の確認	学校は、避難訓練、感染防止対策の指導、下校指導等、適切な安全・健康教育を十分実施している。 (満足度87.1%)	(○)各学年、担任による感染症対策を実施できた。後期バス通学児童へのバス乗降マナーについても重ねて指導を行った。
	(B)危機管理研修を実施する。	心肺蘇生法研修を実施する。新1年生対象に災害時児童引渡し訓練を実施する。また、発達段階に応じた防犯訓練を実施する。	週1回の校舎内運動場の安全点検及びけが0デー(毎週金曜日)の意識化	学校の施設・設備は、学習環境の面で十分な機能を備え、清掃や安全管理が行き届いている。 (満足度84.5%)	(△)防球ネットによる怪我、教室設備による怪我等安全点検による防止策が講じられたのではと思われる事項があった。
	(C)健全な人間関係の育成に重点を置く。	ドン・ボスコの予防教育の励行とともにいじめアンケート等の実施、教育相談室との連携を通して児童の人間関係づくりに励み、明るく楽しい学校づくりに専念する。	緊急時における防火・防災に関する意識高揚	学校は、いじめ(防止)アンケートを実施するなど、子どもからの訴えに耳を傾け、いじめの早期発見に努めている。 (満足度66.3%)	(△)管理職、教育相談室、学年団によるケース会議を通じて集団復帰へ前向きに進行中である。
3. 学園教職員の多岐にわたる研鑽の成果を園児・児童・生徒らの自主的で積極的な学びのために活かす。	(A)アシステンツァを励行する。	「いつでもどこでも子どもと共に」の実践を図る児童が愛されていると感じる指導の在り方、言葉のかけ方を考える。	優しさと自由に根ざした教育共同体としての信頼関係の確立	学校は、「アモレヴォレッツァ」(若者たちが愛されていると感じるように愛そう)の具現化のため、「アシステンツァ」の精神を大切に、子どもたちと信頼関係を築けるよう努めている。 (満足度88.5%)	(○)遊び時間、遊び場所、学年配置等児童指導部の案を検討、実施中である。寄り添いの時間が増えたように感じる。

中期的目標	中期行動計画	年度行動目標	ねらい	関連する学校評価アンケート項目及び満足度	年度評価
3. 学園教職員の多岐にわたる研鑽の成果を園児・児童・生徒らの自主的・積極的な学びのために活かす。	(B) ドン・ボスコの予防教育法に基づく信頼関係の構築	「強いられてするのではなく、すべてのことに愛をもって行おう」の実践に精励し、教職員や保護者との分かち合いを行う。	サレジオ家族の一員としての意識化	学校は教職員同士や教育相談室と連携しながら、子どもたちのよりよい関係づくりや友だち関係の問題解決に努めている。(満足度81.6%)	(△) 鋭意継続中であるが、成果が現れるまでに少し時間を要する可能性がある。
	(C) 発達段階や個別能力に応じた教科研究を実施する。	児童・保護者のニーズに応えるべく、学年や教科主体での研究活動の強化とともに全体レベルでの深化を図る。また、場合によっては、Zoom配信動画配信等による教育活動の実施を行う。	自主自律の学習意欲の向上	教職員は、授業はじめ、休み時間や放課後活動において、声かけや指導を通して、子どもたちに寄り添い、「アシステンツァ」を励行するよう努めている。(満足度89.2%)	(○) 概ね達成されているが、書けない児童、書かない児童への細やかな指導及びiPad等の利用が必要な児童への配慮が必要となる。
4. 学園教職員全体が、学園の未来をともに築き支えていくという意識に基づき行動する。	(A) 校種間の連携を強化する。	授業参観や研究授業等を通して、幼・小・中高の教員の連携を強化し、交流を図る。	幼小中高教員の連携強化	学校は、幼・小・中・高の交流や連携を図ろうと努めている。(満足度60.7%)	(△) 幼小中高の連携の足並みが揃ってきた感はあるが、総合学園として外部にアピールできるように、行事関連の連携を考えていく必要がある。
	(B) サレジオ一貫教育を強化し、大阪星光学院との連携を深める。	合同研修会、ほしゼミ、チャレンジゼミを継続維持し実施する。	サレジオ家族の一員としての意識強化	学校は、サレジオ一貫教育を強化するため、大阪星光学院との連携を深めている。(満足度76.7%)	(△) 城星フェスタでの星光生の参加を通して、前向きな連携強化を進めたい。
	(C) 府内カトリック私立中学校及び私立女子中学校との連携を図る。	前年度発足の進路指導部の展開と定着化を行う。賢明、信愛、ヌヴェール、アサンクション、プール。特別枠として星光、明星。	児童の学力保障と進路指導の強化	学校は、教育連携校はじめ、各々が進学希望する中学校の情報収集に努め、進路指導を強化している。(満足度67.9%)	(△) 私立女子中学校への連携は進まず。
5. 保護者・同窓生・姉妹校の教職員・教会関係の人びと・地域社会の人びととの「アシステンツァ」を深める。	(A) 保護者と寄り添いながら共通理解を図る。	児童の発達段階に応じて、話題を共有しあい、成長を確かめ合う機会をより多く持つ。	家族的な雰囲気、教育共同体の一員としての自覚の促進	教職員は、保護者の相談に適切に対応し、成長や課題を伝え、共通理解を図ろうと努めている。(満足度86.6%)	(○) 適切な保護者対応を心掛け、実践できている。ただし十分な理解を得られない保護者がゼロではないため、同じ方向を向いて教育を進められるように努めたい。
	(B) 小学校同窓会(FDDB)との連携を図る。	城星フェスタや学校行事、日常生活の必要に応じて、教育活動に理解、協力を願う。	城星ファミリーとしての同窓会との連携	学校は、同窓会や同窓生との連携を図ろうと努めている。(満足度67.6%)	(△) 城星フェスタへの参加以外の活動について再度確認したい。
	(C) 地域社会の人々との関わりを深める。	登下校や日常生活の中でお世話になっている方々に挨拶や感謝の気持ちを伝える。	サレジオ精神の実践化	教職員は、子どもに近隣の方々やお世話になっている方へのご挨拶や感謝を伝えることをの大切さを教え、実践するよう指導している。(満足度84.9%)	(△) 登下校のマナーについてはその都度指導を続けており、送迎マナーの悪さについては連絡が少なくなってきたはいる。